

# 第6期中期経営計画・2018年度事業計画

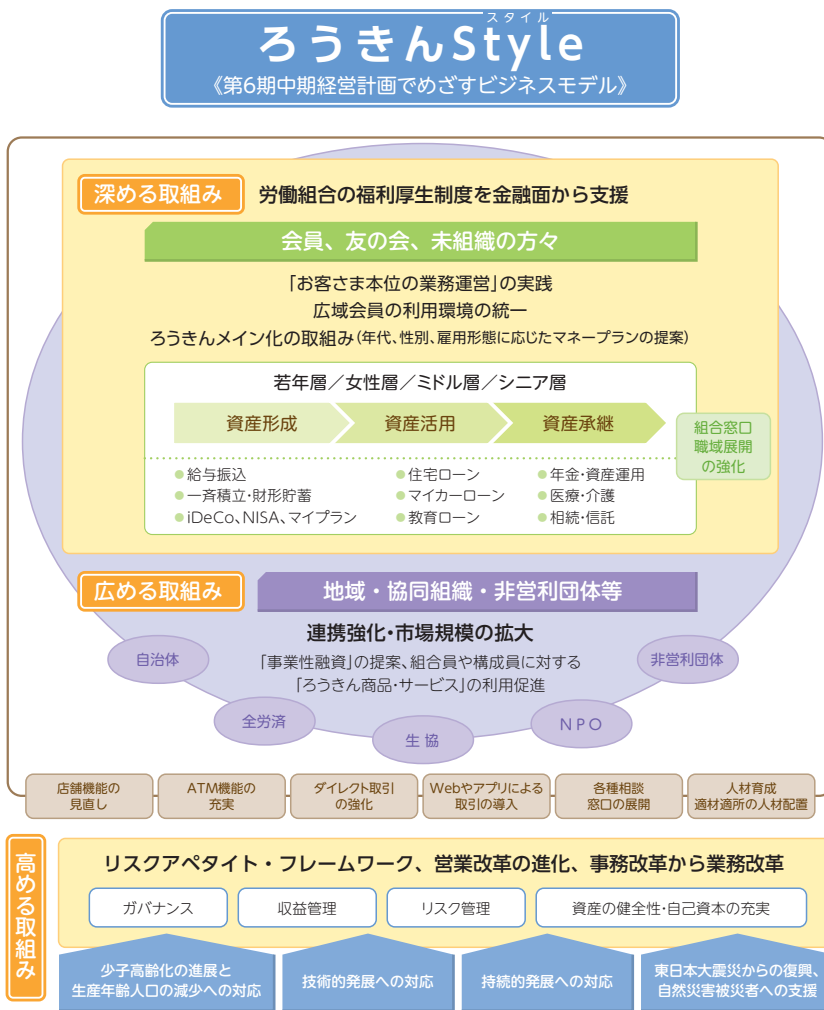
社会・経済・金融環境の変化は、働く人の生活・家計・人生設計に大きな影響を及ぼし始めています。また、震災復興も道半ばにあり、協同組織金融機関である労働金庫には、さらなる役割発揮が求められています。

「第6期中期経営計画（2018年度～2020年度）」では、対処すべき課題を明確にし、新たな「労働金庫としての持続可能なビジネスモデル」構築に向けた「種をまく」時期と位置付け、統合20年を迎える「第7期中期経営計画（2021年度～2023年度）」に「花を咲かせる」という長期的展望に立った事業を展開してまいります。

具体的には、「ろうきん運動」の推進とともに「お客さま本位の業務運営」のもと、「会員・利用者の皆様の満足度向上」と「金庫の持続的発展」を可能とするビジネスモデルを「ろうきん<sup>スタイル</sup>」として、その定着を図ってまいります。

## 私たちがめざすべき姿（ろうきん<sup>スタイル</sup>）

第6期中期経営計画では、「深める」「広める」「高める」の〈3つの取組み〉により、持続可能なビジネスモデルの構築をめざします。また、その実現・定着のため〈4つのカテゴリー〉に課題を整理し、具体的な取組みを実施してまいります。



### ■主要計数目標

（単位：百万円、％）

項目	2018年度
預金年間増加額	35,000
貸出金年間増加額	25,000
預貸率（平残）	57.98
当期純利益	2,036
ROA（総資産税引前利益率）	0.13
OHR（業務粗利益経費率）	84.13
自己資本比率	9.81
経費率	0.85

※ ROA：経営資源である総資産をどの程度効率的に活用し利益に結び付けているのかを表し、ROAが高いほど収益性が高く効率的であることを示します。

※ OHR：業務粗利益に対する経費の割合を表し、OHRが低いほど効率的であることを示します。

### ■2018年度事業計画 〈4つのカテゴリー〉における取組み

カテゴリー	テーマ
<1> 少子高齢化の進展と生産年齢人口の減少への対応	①顧客属性に応じた商品・サービスの提案と生涯取引の実現 ②店舗機能、取引チャネルの充実 ③商品・サービス力の向上
<2> 技術的発展への対応	①「銀行勘定の金利リスク IRRBB」適用下における経営基盤の確立 ②業務改革の実践と金融テクノロジー「FinTech」への対応
<3> 持続的発展への対応	①会員、推進機構との連携強化 ②会員直接還元政策の検討 ③地域創生に向けた取組み ④金庫人材の育成と活用 ⑤組織の活性化と組織力の向上
<4> 東日本大震災からの復興、自然災害被災者への支援	①東日本大震災からの復興 ②自然災害被災者への支援